

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成25年6月14日現在

機関番号：62601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2012

課題番号：23653259

研究課題名（和文）到達目標を明確にした教育課程基準のモデル開発に関する研究

研究課題名（英文） Research on the standard of the curriculum to focus on the attainment target

研究代表者

工藤 文三 (KUDOU BUNZOU)

国立教育政策研究所初等中等教育研究部長

研究者番号：30231096

研究成果の概要（和文）：日本の教育課程の基準はこれまで各学校で指導すべき内容を中心に示してきた。この研究は、教育課程の基準に関して、内容中心のカリキュラムから、目標に重点を置いたカリキュラムに改善するための方向性を探ることをねらいにした。そのための基礎資料として、諸外国の学校カリキュラムや日本の学校カリキュラムの開発事例の分析を行った。研究の結果、カリキュラムの改善の例として、四つのパターンを示した。

研究成果の概要（英文）：The curriculum standard of Japan has so far been shown focusing on the contents which should be guided in each school. This research was aimed at improving from the curriculum based on contents to the curriculum based on targets. Therefore, we analyzed the development example of the school curriculum in foreign countries, and the school curriculum example in Japan. We showed four patterns for the example of the improvement of curriculum standard.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	1,100,000	0	1,100,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：学校教育、カリキュラム論、学習指導論、学習指導要領

1. 研究開始当初の背景

我が国の初等中等教育における教育課程の基準は、学習指導要領の総則に示されているように、伝統的に学校で扱うべき指導内容を示す方法がとられてきた。このことの利点は、取り扱う指導事項において、全国的な共通性を確保することができる点にある。一方で、資質や能力の育成を目指すカリキュラム編成の在り方が、明確になりにくいという課題が指摘されてきた。今後は、OECDのキー・コンピテンシーのように、必要とされる資質や能力を、学校教育にどのように位置付けカリキ

ュラムとして編成していくのか、そのための手続きや方法が問われている。教育課程基準においても、到達すべき目標をどのように位置付け示していくのかが検討される状況にあると考えた。

2. 研究の目的

1. で掲げた背景を踏まえて、以下の点を研究の目的とした。
 - (1) 教育課程基準の示し方には、どのような類型が想定されるか、諸外国の例及び文部科学省研究開発学校等の開発事例を参考に解明する。
 - (2) (1) で示した教育課程基準の類型

に応じて、教育課程の基準を各学校の教育課程に具体化する上での課題を整理する。

3. 研究の方法

(1) 外国における教育課程基準の構成や示し方の分析整理

到達目標を重視した教育課程基準を設定しているイギリス、オーストラリア、フランス、中華民国の例について、次の観点から分析整理した。①到達目標設定の根拠や手続き、設定方法、②到達目標と教育課程を構成する内容との関連、③到達目標及び教育課程基準を評価する方法等である。

(2) 国内における先行開発事例の調査

我が国において、目標とする資質や能力の習得を目指した教育課程の開発を実施してきた文部科学省研究開発学校におけるカリキュラムの収集と整理を行った。分析の観点は、目標の設定とこれらを内容・方法に結びつける手続きや方法をどのように工夫しているかという点である。

4. 研究成果

本研究では、求められる資質や能力の育成を重視した学校カリキュラムの在り方を展望する視点から、到達目標を明確にした教育課程基準の構成や示し方について検討を進めてきた。その結果、次の結論を得た。

(1) 教育課程基準における到達目標の示し方については、例えば、近年のフランスのように「共通知識技能」を定めて、教育課程基準の内容を示す例、「十大基本能力」を策定し、教育課程を各領域として構成する中華民国の例がある。また各学習領域に諸能力を横断的に位置付けるオーストラリアの教育課程基準の例、複数学年のステージごとに目標を示すイギリスの例がある。

これらのタイプを目標と内容の関係の観点から比較すると、基準として目標は示すが、内容は具体的に示さず各学校に委ねるタイプと、内容は教科ではなく緩やかな領域として示すタイプなどに整理できる。

(2) これらの整理を手掛かりに、教育課程基準の示し方について次のように類型化した。①学習指導要領の総則において、教科等の学習で共通に習得させる資質や能力を明示し、この共通目標と各教科等における目標との関連を明確にして示す方法。②①に加え、各

教科等の内容を示す際に、個々の内容の扱いにおいて習得させる資質や能力をより明確に示す方法。③現行の学習指導要領の内容の示し方は、文で示しているが、これを目標としての資質・能力と指導内容の例を区別して別に示す方法。この場合、資質・能力と内容の例の関係については、授業において具体性を持つかどうか、吟味して示すことが必要である。④現行の学習指導要領の構成に加え、教科横断的な資質や能力を育成するための場面をより具体的に示す方法。これは全体計画の基礎的な枠組みを教育課程の基準として示す方法である。

現行の学習指導要領を今後どのように改善していくかは、教育課程の基準の性格とも関連するので、一概にいえませんが、上記の①～④のいずれも漸次的な改良の姿として参考になるものと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計 件)

〔学会発表〕 (計 件)

〔図書〕 (計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

工藤 文三 (KUDOU BUNZOU)

国立教育政策研究所初等中等教育研究部長

研究者番号：30231096

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：